

同定結果報告書

平成 24 年 1 月 16 日

●●●●● 様

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2 丁目 5 番 2 号

電話 03 (3406) 1724

FAX 03 (3409) 3862

株式会社 セルコ
代表取締役 赤澤 豊

ご依頼のありました件、以下のとおり、同定いたしました。

記

同定担当者

中野 晃生 印

所 属：株式会社セルコ 環境事業部

保有資格：生物分類技能検定 1 級（哺乳類・両生類・爬虫類部門）

サンプルの形状等

サンプル受け取り日：平成 24 年 1 月 7 日

サンプルの状態：常温保存

サンプル数：2 検体

サンプル内容：哺乳類の毛皮（1 検体は、前半身、1 検体は、腰及び後肢の一部）

発見場所：乾牧草内

原料牧草採集場所：アメリカ合衆国オレゴン州

牧草品種：フェスキューストロー（Fescue Straw）

同定結果

同定結果：コヨーテ

生息場所：アメリカ合衆国全域に生息

砂漠から市街地まで生息するが、主に牧草地を含む草地を利用する。

詳細は、別紙参照のこと

以上

同 定 結 果 票

同定者氏名	中野 晃生 印	所属	株式会社セルコ 環境事業部
-------	---------	----	---------------

同定結果	目	科	属	種	学名	英名
	ネコ	ネコ	コヨーテ	コヨーテ	<i>Canis latrans</i>	Coyote

混入牧草 産 地	アメリカ合衆国オレゴン州
-------------	--------------

同定根拠	<p>1. サンプルの状況</p> <p>サンプルは、「前半身（胸部まで）」と「下半身（腰と後ろ足の一部）」であった。</p> <p>(1) 前半身（肩から胸まで）</p> <p>前半身には、頭部（圧縮され、砕けているため、頭骨の形状は不明）及び前肢及び胸部を確認した。</p> <p>① 毛色は背側は黄土色、腹側は灰白色を呈していた。背側には、白色の毛も混じっている。</p> <p>② 頭部は圧縮されており、元の形状は不明である。</p> <p>③ 頭部に残された歯は、左上顎の犬歯が目立ち、その他、切歯が残されている。</p> <p>④ 右上顎の犬歯は、折れ、確認できない。</p> <p>⑤ 耳は、三角形を呈しており、毛色は、外側は黄土色から茶褐色、内側は白色であった</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図-1 前半身全体図（左側）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図-2 前半身全体図（右側）</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>図-3 歯の状況（左側犬歯）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図-4 歯の状況（右側）</p> </div> </div>

同定根拠



図-5 耳（外側）



図-6 耳（内側）

⑥ 脚の毛色も同様に前は黄土色、後は灰白色を呈している。



図-7 前肢（前側）



図-8 前肢（後側）

⑦ 脚の指は5本であるが、親指（図-8（○））は、肢の上のほう（足首に近い部分）についていることから、イヌのように4本指で歩行する（つま先で歩行）（指行性）哺乳類のものであった。

(2) 下半身（腰と後肢の一部）

下半身には、大腿部と後肢（左側）の一部を確認した。

- ①毛色は、背中側は、茶褐色、腹側は灰白色を呈していた。
- ②脚部は、つま先側は失われ、大腿部の一部を確認した。



図-9 大腿部（左後肢）

同定根拠

2. 結果

圧縮されて入るものの、頭部の形状及び歯（特に犬歯）の形状から、ネコ目（食肉目）の哺乳類であることが同定できる。また、吻部（口の部分）が突出していること、耳及び脚の形状から、ネコ目のうち、イヌ科の動物であることが同定できる。

さらに、イヌ科の動物のうち、アメリカ合衆国に生息しており、牧草地にも生息している可能性ある種として、キツネ、コヨーテ及び飼いイヌ（野良イヌ）があげられる。

その他、北アメリカには、タイリクオオカミも生息しているが、北アメリカ北部の森林地帯に生息しており、サンプルの混入していた牧草の採集地であるオレゴン州には生息していないことから、今回の比較対象からは除外した。

以上より、キツネ、コヨーテ、飼いイヌ（野良イヌ）の3種と本サンプルを比較検討した。

（1）キツネ

キツネについては、イヌ科の動物であり、アメリカ合衆国全域に生息しており、今回のサンプルが混入したと考えられる牧草地にも生息しているほか、脚の形状や頭部から体の毛色も個体変異の中に含まれると考えられた。

しかし、キツネでは、耳の裏の毛は黒く、今回の個体のように全体が黄土色を呈していることはないため、キツネではないと同定できる。

同定根拠



図 - 10 キツネ (○ : 耳の裏の黒色部)
(<http://gasoku.livedoor.biz/archives/51294866.html> より引用)

(2) コヨーテ

コヨーテは、イヌ科の動物であり、アメリカ合衆国内全域に生息しており、牧草地にも生息しているほか、脚の形状や耳の色、体毛や脚部の形状も今回のサンプルと合致する。

歯の形状もコヨーテの犬歯と比較すると同様に細長く、後部の湾曲が大きい(図-12 参照)。

以上のことから本サンプルは、コヨーテと矛盾しない。



図-11 コヨーテ
(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%83%A8%E3%83%BC%E3%83%86> より引用)



図-12 コヨーテとサンプルの犬歯（○）の比較
 哺乳類頭骨の画像データベース（第2版）
 (<http://1kai.dokkyomed.ac.jp/mammal/jp/mammal.html>) より引用

同定根拠

(3) 飼いイヌ（野良イヌ）

飼いイヌについては、毛色については、変異が大きいため、このような毛色の犬種（特に耳が立っている柴犬等）がいてもおかしくはない。

また、耳や脚の形状等も飼いイヌ（野良イヌ）とも合致する。

しかし、犬歯の大きさが、イヌと比較すると細長く湾曲が強いこと（図 - 13 参照）、混入した場所が牧草地であり、これらの毛色及び耳（三角形）を持つイヌ（特に柴犬）が生息しているとは考えられず、イヌである可能性は非常に低いことから、飼いイヌは除外できる。

なお、毛色からは、コーギー、ゴールデンレトリバー、コリー等の大型犬の可能性も残されている。しかし、コーギーは肢がサンプルよりも短いこと、ゴールデンレトリバーは、耳が大きく、垂れ耳であり、毛もサンプルより長いこと、コリーは、耳が立っているが、毛が長いことから、これらの種類は今回のサンプルとは合致しないため、除外できる。



図-13 イヌとサンプルの犬歯（○）の比較（赤線が歯茎の位置）

哺乳類頭骨の画像データベース（第2版）

(<http://1kai.dokkyomed.ac.jp/mammal/jp/mammal.html>) より引用

同定根拠

(4) まとめ

キツネ、コヨーテ、飼い犬と比較検討した結果、本サンプルは、アメリカ合衆国に生息している野生動物のコヨーテであると同定された。

コヨーテは、アメリカ合衆国全域に生息しており、現在は、市街地にも出没することがあるが、本来の生息地は、草地である。このため、牧草地にも多数生息している可能性が高く、混入する確立が高い種である。

歯の状態から見ると、磨耗していないため、若い個体の可能性が高い。

牧草に含まれたのは、牧草地で死亡したあるいは病気等により衰弱し、動けなくなった個体が牧草を刈る機械に巻き込まれた可能性が高い。